

授業実践のまとめ

中学校 第3学年 道徳科 主題名「弱さの克服の先に」【内容項目 D-(22) よりよく生きる喜び】
教材名「二人の弟子」(出典『私たちの道徳 中学校』文部科学省 発行)

授業の実際

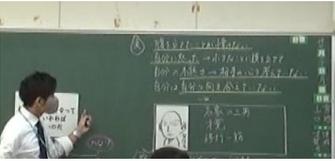
☞ 授業前の取組は「[授業づくり FIRST STEP](#)」及び「[授業づくり Q&A -中学校道徳科-](#)」へ

1 本時のねらい

自分の弱さに気付き、向き合い、受け入れることを通して、強く気高く生きようとする道徳的態度を育てる。

2 本時の展開

☞ 詳しくは「[授業づくり FIRST STEP を活用した学習指導案](#)」へ

	学習活動	主な発問(○) 中心的な発問(◎)	◇指導上の留意点
導 入	1 今の自分を振り返り、自分の弱さに気付く。 	○ 高校入試まであと3か月程になりました。進路実現に向けて、どれくらい本気で取り組んでいますか。また、受験勉強においてどのような“弱さ”がありますか。	◇ 4択で質問し、その理由を聞く。問答を通して、自分の弱さや醜さに気付くことができるようにする。 導入の工夫
	2 「二人の弟子」の内容を整理し、教材における「人間の弱さや醜さ」について考える。	○ 教材に出てくる「人間の弱さや醜さ」を挙げよう。	◇ 道信の弱さや醜さには気付きやすいので、この発問後は智行に焦点化する。 ◇ 問答を通して、智行の感情が、教材の中で揺れ動いている点に着目することができるようにする(怒りと涙)。
展 開	3 智行の感情の変化(怒りと涙)について考える。 	○ 智行が、寺に戻りたい道信や、道信を受け入れる上人に対して“怒り”を覚えたのは、どのような気持ちからだろう。 ○ 月の光の中に立ち、“涙”を流す智行は、何を考えていたのだろう。	◇ 智行の怒りに共感し、その気持ちを自分事として考えるように促す。 ◇ 智行が何に気付いたのか、何を思い知ったのかに着目させ、智行の涙の意味に迫ることができるようにする。 展開の工夫①
	4 上人の言葉を、自分との関わりで考え、話し合う。 	◎ 「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という言葉には、どのような想いが込められているのだろう。	◇ 智行が何に気付いたのか、何を思い知ったのかに着目させ、智行の涙の意味に迫ることができるようにする。 展開の工夫② ◇ 自分との関わりで深く考えることができるようにするために、以下の補助的な発問を加える。 「自分自身と向き合った先に、どのような自分になることができるのだろう。」
終 末	5 本時の学習について、書く活動を通して振り返り、教師の説話を聞く。 	○ 今日の授業における気付きや感想を書きましょう。	◇ 生徒が気付きや感想を書き、これからの自分の生き方について考えるような自己内対話を終えた後に、教師の説話をする。 終末の工夫

3 本時における授業の展開と指導の工夫等

※ねらいに迫るために、特に意図をもった発問については赤字で示しています。

導入の工夫

○導入は、主題に対する生徒の興味や関心を高め、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機付けを図る段階です。本時では、導入の工夫として生徒の受験勉強に関連する質問を行い、生徒が主題に対して問題意識をもち、自分事として考えて授業に臨むことができるようにしました。

◆導入の質問



皆さん、高校入試まであと3か月程になりました。進路実現に向けて、どれくらい本気で取り組んでいますか。また、受験勉強においてどのような“弱さ”が出るのでしょうか。
(資料1のように4択で質問し、回答していく)



資料1 導入の質問の様子

【「まあまあ本気で取り組んでいる」と回答した生徒へ】



どのような“弱さ”が出るのでしょうか？

自分なりに受験に向けて取り組んでいるけれど、まだまだ学習時間を増やした方がいいと思っています。



【「あまり本気で取り組んでいない」と回答した生徒へ】



どのような“弱さ”が出るのでしょうか？

宿題などの答えをすぐに見てしまって、提出することが目的になってしまっています。



「今日は勉強しなくていいかな…明日からやろう」って、思っただけ…。



◆問い返しの質問

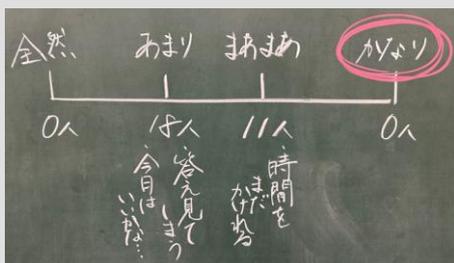


皆さんそれぞれに、受験勉強において“弱さ”が出ることがあると感じていますね。では、11月に差し掛かろうとしているこの時期ですが、皆さんの理想はどの位置ですか？もう一度教えてください。

(挙手をする生徒の様子を見渡して…)

なるほど。皆さん全員が、進路実現に向けて「かなり」真剣に向き合わなければならないと感じているのですね。

(黒板の「かなり」を赤で囲む)



資料2 導入の質問の答えと、問い返しをした結果



導入の質問の回答に対して問い返すことで、資料2に示したように、全ての生徒が「かなり」の項目に回答しました。生徒自身が、理想の自分の在り方と現実に、乖離が生じていることに気付くことができました。

展開の工夫

○展開は、ねらいを達成するための中心となる段階です。展開の工夫として、特に以下の2点を心掛けました。

展開の工夫①

生徒の実態と教材の特質を押さえた発問と、ねらいに迫るための生徒とのやり取りを心掛ける。

◆発問「月の光の中に立ち、“涙”を流す智行は、何を考えていたのだろうか」における「生徒の反応」

- ・ 道信に対して腹を立てた自分が情けない。
- ・ 心の狭い自分自身に怒っていた。
- ・ 自分の未熟さについて考えていた。

智行の弱さに気付くことができた生徒の反応を踏まえて、智行が自分の弱さに向き合い、受け入れ、強く気高く生きようとする様子をつかむために、□ に示す補助的な発問をしました。



智行は、自分のどのようなところが未熟だと感じましたか？

道信の過去の辛い経験や、これから頑張ろうとする気持ちを考えていないところ。



自分自身と向き合うことができていないところ。



そうですね。智行は、道信の気持ちを考えることができなかつたり、自分自身と向き合うことができていなかつたりするところが、未熟だと感じたのですね。



そもそも、自分自身の“何”と向き合うのでしょうか？

弱さ！



自分の弱さに気付き、向き合い、涙を流した智行は、これからどのように生きていくのでしょうか？



もう一度修行をやり直して、自分を見つめ直すのでは？



自分の弱さを受け入れて、弱さを克服していくと思います。



◆中心的な発問「人は皆、自分自身と向き合って生きていかなばならないのだ」という言葉には、どのような想いが込められているのだろうか」における「生徒の反応」

- ・ 自分自身と向き合って、変わっていく。成長していく。
- ・ 自分の弱さと共に人生を歩んでいきなさい。
- ・ 自分の弱さと向き合って、強さに変えていきなさい。

生徒の反応を踏まえて、自分の弱さに気付き、向き合い、受け入れることで、強く気高く生きようとするようになるために、□ に示す補助的な発問をしました。



自分自身の“弱さ”と向き合った先に、どのような自分になるのでしょうか？また、どのような生き方ができるようになるのでしょうか？

弱さを受け入れることができる、強い心をもった素敵な自分！



弱さを克服する努力をし、理想の自分に近付こうとする生き方！



発問に対する生徒の反応に補助的な発問を加えることで、ねらいとする価値により一層迫り、道徳的価値の理解を深めることができました。

展開の工夫②

中心的な発問に対して、生徒が多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解が深まるように留意する。

◆中心的な発問において

まず、生徒は問いを受けて率直に感じたことを書きました。次に、話し合いの中で感じたことや気付いたことをメモし、最終的には、話し合いを通して得た自分なりの思いや考えを書くようにしました。その際、スライドを準備するなどして、生徒にワークシートの活用の仕方が正しく伝わるようにしました（資料3）。

◎ 中心的な問い

この問いを受けて、自分が率直に感じたことをここに書こう。

友達との話し合いを通じて、問いに対する自分なりの思いや考えを、ここに書こう。

友達と話し合いをして、感じたことや気づきをここにメモしよう。



資料3 中心的な発問におけるワークシートの活用の仕方を示したスライド(左)と、話し合いの様子(右)

◎ 中心的な問い

どんな自分も受け止めて生きていく。

自分の弱さを知ることが自分の強さになる。素直になる。見つけ直す。

自分の弱さを知ることで強くなるし、弱さを知ることによって素直になる。

素直になる。

自分の弱さを受け入れる

自分の弱さを知り、受け入れることで強くなる！

自分の弱さを知ることによって素直になる！

友達の意見を聞いて、自分の弱さに気づき、向き合い、受け入れることで、強くなれるという価値を感じていますね！

※机間指導の際、生徒の学習状況に着目し、多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解が深まっている様子を認め、励ます声掛けを行いました。

➡道徳科の評価については「授業づくりQ&A - 中学校道徳科 -」へ

資料4 中心的な発問におけるワークシートの記述(※赤字は友達の意見)



資料4のワークシートの記述から、「弱さを受け入れる」段階までしか考えることができていなかった生徒が、友達との話し合いを通して、「弱さを知ることによって強くなる」、「弱い部分を知ることによって素直になる」など、「弱さを受け入れた先」の段階まで考えることができるようになりました。

終末の工夫

○終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、今後の発展につなげたりする段階です。終末の工夫として、「書く活動」の時間を十分に確保しました。「書く活動」を通じた自己内対話によって、本時の学習で学んだことを基に、望ましい人間としての生き方を追求し、これからの自分の生き方について考えを深めることができました(資料5)。



私の弱さを克服するために一生懸命頑張っている自分でありたいと思いました。勉強やスポーツをして弱さを出さなければ、その弱さを自分で受け入れてそれを克服するために頑張ること。自分のペースに近づけるかなと思いました。これから受験に向けて弱さを克服するために頑張ります。

資料5 「書く活動」の様子(左)と、ワークシートの記述(右)



資料5のワークシートの記述から、これまでの自分の生き方を振り返りつつ、深まった道徳的価値を基に、これからどのように生きていくかについて明確に示すことができていることが分かります(赤の下線部参照)。

4 授業者の声

授業実践を行った時期は、受験生である中学3年生にとって、受験に向けて取り組む姿勢を見直す大切な時期でした。そのような中、【内容項目 D-(22) よりよく生きる喜び】を取り扱い、自分の弱さに気づき、向き合い、受け入れ、強く気高く生きようとする授業を行うことができたのは、大変意義深かったと感じています。

この授業を実践するに当たって、発問、授業の流れ、板書、教材提示など、様々な場面において想定や構想を繰り返しました。その結果、生徒自ら自分の弱さに気づき、その弱さから目を背けず向き合うことの大切さを自覚し、弱さを受け入れることで、強く在ろうとする理想の自分に近付くきっかけとなったと感じています。道徳科の授業づくりにおいては、生徒が道徳的価値についての理解を基に、道徳的価値や人間としての生き方についての考えを深めることができるように、教師が指導の明確な意図をもちつつ、発問とそれに対する生徒の反応を踏まえ、様々なことを想定する必要性を再認識しました。それと同時に、発問などの指導方法の工夫は道徳性を養う「手段」であり、工夫そのものが「目的」となってしまわないようにすることの大切さを自覚しました。

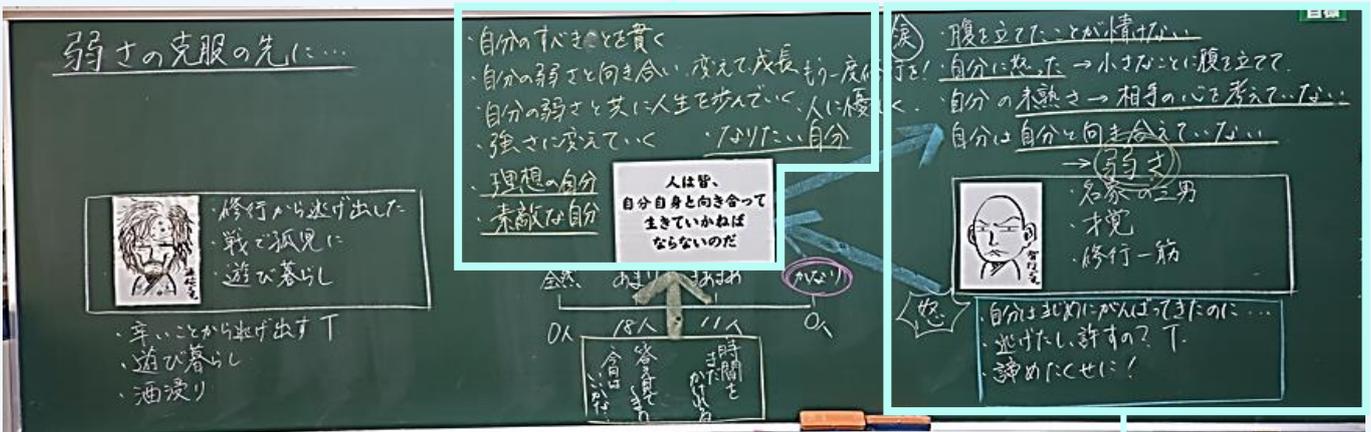
一方で課題として、発問に対する生徒とのやり取りがスムーズにいかず、生徒の意見に教師から解釈を加えてしまうことがありました。生徒が主体的に望ましい人間としての生き方を追求していく様子を見守る姿勢を大切にするとともに、今後も指導方法の工夫に取り組んでいく必要性を感じました。

道徳教育は、教育の中核をなすものであり、道徳科はその要としての役割を担っています。生徒の内面的資質を高め、これからの生き方につながる価値ある教育活動であることを踏まえ、これからも道徳教育の充実に向けて授業づくりを行っていきたいと思います。

5 参考資料等

【板書】

中心的な発問を中央上部に示した、中心部分を浮き立たせる板書の工夫



登場人物の思考の変容を構造的に示す板書の工夫

【振り返り】

○ 今日の授業における気づきや感想を書きましょう。

私は自分の弱さを知り、成長していかなければいけないと感じた。根、この弱さの部分は変えたい。それを乗り越えて、自分の強さに変えることができればいいと思う。受験前で、いろいろな弱さから気づくと思うから、それを乗り越えて、どう行動するかを大切にしたい。自分の弱さも強さも自分自身だから、自分の弱さは自分自身で乗り越えて、自分を強くしたいと思う。

○ 今日の授業における気づきや感想を書きましょう。

自分の弱さが、つらい事とは逃げたいという弱さの気持ちで生きていた。けれど、その弱さ、気持ちが弱さから強さへと変わってきたと思う。今日の授業で分かったことは、弱さから強さへ変えるためには、弱さから強さへ成長していくことが分かった。自分の弱さから自分の弱さを理解し、（さきへ向き合っていく）強さへと変えていく。

授業で深まった道徳的価値について、そのよさや大切さを考えたり、これまでの体験から感じたことを振り返ったりするなどして、これからの自分の生き方に生かそうとしていることが分かる記述(赤の下線部)